

医療法人社団桜友会
心臓血管治療施設 所沢ハートセンター

埼玉県所沢市上新井

診療科名 循環器内科、放射線科

病床数 30床(CCU3床)

採用項目 BNP



パスファーストの使用頻度は月に約260件。だれでも簡単な操作で全血検査ができるため助かっているとのこと。

右から
黄田 理恵子 検査科長
谷川 浩史 技師
高橋 杏菜 技師

全血検査のため操作が簡単で、測定もスピーディ。 他の検査に時間を使えて助かっています。

所沢ハートセンターは どのような特徴がありますか。

高橋技師 (以下、高橋) : 当院は狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈など、循環器疾患の治療を専門に行っている病床数30床の施設で、24時間365日救急対応しています。2019年には透析とリハビリの新しい棟を開設しました。

パスファースト導入のきっかけを 教えてください。

谷川技師 (以下、谷川) : リアルタイムに心不全の状況把握ができ、外来患者に対し検査結果を添えて説明が行えるということで、2006年12月に導入しました。当院は循環器専門病院であり、ほかの病院からの紹介が多いです。CTやエコーなどモダリティ^{*1}の検査、他の項目の採血検査などを同時に進めてい

く必要があるため、BNPをパスファーストで院内測定できるのは大きなメリットだと思います。

現在どのようにパスファーストを お使いですか。

高橋 : 外来では当日診察前に測定を行っています。入院患者に対してはモニタリングとしてフォローアップで見えています。また、救急対応もしていますので緊急検査としても使用しています。検査数は、BNPで260件/月、院外に外注するものを含めると約500件です。

黄田検査科長 (以下、黄田) : 基本的には慢性心不全の評価などすぐに結果を出す必要のない場合は外注に出して院内(パスファーストでの測定)と使い分けています。しかし院内と外注では測定法の違いから数値に誤差が生じることがあるため、同じ検

(裏面へ続く)

査でフォローアップするために、慢性期で落ち着いている場合でも診察当日に院内で測る患者さんもかなりいらっしゃいます。



谷川: 当院では、OMI (陳旧性心筋梗塞)、不整脈、弁膜症、それらによる慢性心不全に対する評価や急性心不全の除外・否定といった判断の一助としてBNPを測定しています。2019年4月リハビリ棟ができ、入院患者に対する心臓リハビリテーションが始まったこともあり、アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬 (ARNI)^{※2}の影響などを受けるBNPの数値の見方に関しては考えさせられる部分があります。しかし現時点ではサポートデータとしては、医師による診断や評価には役立てられていると思います。

パスファーストの使い勝手や使用された感想を教えてください。

高橋: 検体は全血を使って検査しています。カートリッジをセットして、検体も全血のまま入れてスタートするだけなので、簡単に操作できます。当直時間帯など、普段パスファーストを操作しないスタッフや医師が操作することもあるので、だれでも簡単に操作できるのが良いと思います。

次に導入したいパスファーストの項目はありますか。

谷川: 当院では救急でDVT (深部静脈血栓症) や肺塞栓で運ばれてくる患者さんがいらっしゃるため、医師に伺った意見としても私としてもDダイマーの測定が望ましいと思います。

「パスファーストが役に立った」というエピソードはありますか。

谷川: 医師に伺ったところ「不定愁訴の訴えとかメンタル的な症状が強い人に対しては、検査値を提示できることで心不全

を否定する説明の根拠となり役立っている」とのことです。自分たち臨床検査技師が心エコーを実施する際、例えば収縮能が保たれているHFpEF^{※3}の患者さんの拡張障害や左房負荷、右心負荷の状態などを見ながら検査をしていますが、グレーゾーンであるケースはとて多いです。その際に、BNPの値などをサポートデータとして活用してしっかり評価できると考えています。逆もしかりで、エコーを撮っていて拡張障害があり、心不全を強く疑う所見でも、症状やBNPの値によっては入院せず投薬のみで帰っていただき、経過を見ていくこともあるので、生理検査と検体検査の両面から評価して対応できることは院内測定のメリットだと思います。



高橋: 当院の検査科では当番制でローテーションのような感じで動いていて、生理検査部、検体検査部と分けて検査をやっているわけではありません。そのため、検体当番の人が検査の合間に生理検査に行くと心電図などの検査をするということもあります。そういったときに、パスファーストは操作が簡単なので迅速にスタートをかけて、他の作業に時間を使えて助かっています。

これからのパスファーストに期待することは何でしょうか。

高橋: スタートしてから次の検体が来てしまうことがあるので、検体の途中追加ができるようになるとより使いやすくなると思っています。

黄田: 今はできるだけ採血の様子など検体到着の状況を見ながらスタートしていますが、救急の検体はどのタイミングで来るか読めないのが、検体追加ができるといいですね。あとは、心不全の患者さんではBNPの数値が振り切れることが多いので、自動希釈が試薬の直線性が伸びると再測定の時間を短縮できて助かります。

※1 医用画像を撮影する装置のこと

※2 慢性心不全治療薬、本剤の薬理作用により投与開始初期にBNPが増加するため値の解釈に注意が必要

※3 左心駆出率が保たれた心不全

体外診断用医薬品



移動式免疫発光測定装置 パスファースト
PATHFAST®

製品情報は
こちら



この施設で使用している製品は
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチドキット
パスファースト®BNP

一般医療機器 特定保守管理医療機器

PHC株式会社 診断薬事業部

お問い合わせ先 インフォメーション TEL 03-6865-2500
URL <https://www.phcd.com/jp/ivd/>

使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

231201-002 P2312RIX-03 2023年12月作成